

秋田県商工会地域景況判断ボード

平成27年1月～3月期

【全体】全地区・業種で悪化、来期は改善の見通しを示す

業況DI値は前期より好転が5.9%(10.0%→4.1%)減少、悪化が9.5%(35.9%→45.4%)増加したことから15.4ポイント低下の▲41.3ポイントとなった。冬期間における受注の減少や個人消費の低迷などから全地区・業種ともに悪化を示したが、来期は全業種において改善の見通しである。



【北部】



- 業況DI値は前期より11.3ポイント低下した。採算DI値は小幅ながら上昇したものの、他調査項目においては悪化となった。
- 来期の業況は、全ての業種において好転する見通しである。

【中央部】



- 業況DI値は前期より19.2ポイント低下した。他調査項目においても悪化となり、特に売上DI値は24.1ポイント低下と大幅に悪化した。
- 来期の業況は、全ての業種において好転する見通しである。

【南部】



- 業況DI値は前期より16.4ポイント低下した。他調査項目においても悪化となり、特に売上DI値は27.9ポイント低下と大幅に悪化した。
- 来期の業況は、製造業、建設業、サービス業が好転し、小売業は概ね横ばいとなる見通しである。

【製造業】



■今期の業況

業況DI値は前期より18.7ポイント低下した。他調査項目においても、10ポイント以上低下しており、受注の減少に加えて、原材料価格の上昇から大幅な悪化となった。

■来期見通し(3ヵ月ごとの比較)

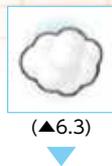
業況DI値は今期と比べ24.7ポイント上昇しており、好転する見通しである。

■設備投資

今期実施件数は10件あり、調査対象製造業の15.9%が設備投資を行なった。来期計画件数は8件となっている。



【建設業】



■今期の業況

業況DI値は前期より27.0ポイント低下した。他調査項目においても、10ポイント以上低下しており、冬期間における公共工事の受注減少により、大幅な悪化となった。

■来期見通し(3ヵ月ごとの比較)

業況DI値は今期と比べ18.7ポイント上昇しており、好転する見通しである。

■設備投資

今期実施件数は7件あり、調査対象建設業の14.6%が設備投資を行なった。来期計画件数は7件となっている。



【小売業】



■今期の業況

業況DI値は前期より15.0ポイント低下した。依然として、個人消費の低迷や仕入価格の上昇を経営上の問題としている企業が多く見受けられ、厳しい状況が続いている。

■来期見通し(3ヵ月ごとの比較)

業況DI値は今期と比べ11.8ポイント上昇しており、好転する見通しである。

■設備投資

今期実施件数は4件あり、調査対象小売業の5.1%が設備投資を行なった。来期計画件数は6件となっている。



【サービス業】



■今期の業況

業況DI値は前期より8.6ポイント低下した。需要の停滞、利用者ニーズの多様化が経営上の問題として多く見受けられ、依然として低調に推移している。

■来期見通し(3ヵ月ごとの比較)

業況DI値は今期と比べ10.3ポイント上昇し、好転する見通しである。

■設備投資

今期実施件数は13件あり、調査対象サービス業の12.5%が設備投資を行なった。来期計画件数も13件となっている。



北部トピックス

- 大館北秋
大館市は産業競争力強化法に基づく「創業支援事業計画」の認定を受けた。地域で創業の促進を図ることを目的として、商工会・商工会議所・保証協会・金融機関が連携し創業者や創業希望者への支援を行う。
- 藤里町
町内の温泉郷協議会と地区の活動推進協議会が、特産品を目指す羊などの地域資源PRを目的に「ふじさと咲羊(しょうよう)祭り」を開催した。初の試みとして実施し、今後更なる内容の充実、経済波及効果の拡大が期待される。

中央部トピックス

- 湖東3町
五城目町福祿寿酒造の純米吟醸酒「一白水成」が、3月から11月まで、国際線10路線のファースト・ビジネスの両クラスで提供する。機内酒として提供するの12年に続き2回目であり、今後の海外展開が期待される。
- にかほ市
1月10日～2月8日まで「んだっ鱧、にかほ市へ」が開催され、23店舗の飲食店が連携して鱧や鱧しよつるを活用した鱧料理の提供などを行い、参画事業者の売上や賑わいの創出に貢献した。

南部トピックス

- 仙北市
ワールドカップフリースタイルスキー田沢湖大会が2/28～3/1に開催され、連日3千人を超える観客が詰め掛けた。選手は休養日に角館武家屋敷や乳頭温泉郷などの観光名所を回り、仙北市の観光資源を満喫した。
- 羽後町
商工会青年部が主催した第1回「羽後町すげーな祭」が2月28日に開催された。他県からの出展があるなか、商工会青年部が開発した新商品を提供するなど、新たな特産品に向けたPR活動を精力的に行なった。

【天気図】前年同期比のDI値をもとに作成



※「DI 値」とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で各調査項目についての増加企業割合と、減少企業割合の差を示す。

【調査要領】

1. 調査対象 (1)対象地区:全21 商工会地区 (2)対象企業数:294 企業 (3)回答企業数:294 企業 (回収率:100%)
2. 調査対象時期 平成27年1月～3月期を対象とし、調査時点は平成27年3月1日とした。
3. 調査方法 (1)商工会の経営指導員による訪問面接調査 (2)調査対象企業の抽出は「中小企業景況調査実施要領およびマニュアル」による。

4. 調査対象企業数内訳

業 種	対象企業数			
	北 部	中 央 部	南 部	合 計
製 造 業	22	18	23	63
建 設 業	18	13	17	48
小 売 業	25	28	26	79
サ ー ビ ス 業	41	31	32	104
合 計	106	90	98	294

5. その他

- (1)前年同期とは平成26年1月～3月期、前期とは平成26年10月～12月期、来期とは平成27年4月～6月期のことをいう。
- (2)本報告で主に使用する調査項目は、業況・売上・採算・資金繰り、設備投資の状況である。